

平成 29 年度 東大阪市立枚岡東小学校 自然ふれあい教室 [実施報告書]

シニア自然大学校総合科そら組



【テ ー マ】 森と遊ぼう ～不思議だね！木と葉と実～

【実施日時】 平成29年11月21日(火) 9:30～12:20 【天候】 晴れ

【参加児童】 1年生79人(5班編成)・2年生84人(6班編成) 合計163人 (11班編成)

【付添教師】 1年生担任3人・2年生担任3人・加配2人・管理職1人 合計 9人

【立会同行】 東大阪市みどり景観課山地保全協議会 2人

ライオンズクラブ 3人

ジェイコムウエスト東大阪局(取材・撮影) 2人

【 スタッフ 】 自然大学校総合科そら組有志 23人

【スケジュール】

- 9:00 スタッフ集合・・・枚岡神社広場(打ち合わせ・確認)
- 9:30 児童集合・・・班ごとに並ぶ
- 9:35 挨拶・植物のお話(岡田弘)・スタッフ自己紹介
挨拶(東大阪市みどり景観課 松田・東枚岡小学校 校長)
- 9:50 学習スタート(2年生6班～11班、1年生1班～5班、3分毎にスタート)
- 11:20 終了(グリーンガーデン枚岡)・小学校へ移動
- 11:35 教室に入室・工作開始
(1年生・・・カクトのクマ)(2年生・・・マツボックリのフクロウ)
- 12:15 工作終了・片付け
- 12:15 出前学習まとめ(各教室のスタッフ)
挨拶(各担任・そら組岡田)
- 12:20 終了

【所 感】

昨年と同じ小学校のため、2年生は昨年受けた授業であり、内容に変化をつけるべきか悩んだが、繰り返し学習することで身につくものだと考え、小学校側も同様の考えを持っており、ほぼ昨年同様の学習内容に設定した。スタッフも下見をして再確認したり、教材を工夫し、当日を迎えた。子どもたちは木を触り、葉の様子を観察、実や種の話聞き、目当ての葉を探し、匂い、問いかけに考え、調べ、自然工作するなど、五感を通した自然とのかわりを楽しんだ。とりわけドングリ、木の葉、2年生学習用のセミの産卵後の枯れ枝など、手にできるものには関心が高く、探す面白さを感じていた。11班に分かれて順次進むコースは時差がかなりでき、時間配分の難しさを感じながらも、スタッフや先生方も子どもと共に枚岡公園の自然を学んだのではないかなと思う。もっと話をしあがけたかった、もっと子どもの話に耳を傾けたかったという心残りはあるものの、「葉っぱは賢い!」「森は楽しい!」という子どもたちの声に支えられ、秋晴れの出前学習を無事に終えた。

【学習の様子】

学習内容	児童の様子	成果と課題
全体 <u>植物のお話(岡田弘)</u> 周囲の様々な色をした葉について何故?と問いかけ、葉の中の養分(デンプン)が太陽の光で変化することや糖분을蓄えることなど		植物の話を聞く姿は低学年とは思えないほど、しっかりしており、学ぶ態度に感心した。しかし、朝の神社境内の石畳は冷たく、短時間で済ませる工夫が必要。
<u>樹の幹を触らせる</u> エノキ、ツバキ、スギなど触り、幹の様子を感じさせる <u>ノキシブの着生</u> 空気のきれいな場所の木の幹に着くこと		「ふわふわ」「堅い」「ざらざら」「温かい」など幹の感触を口々にしていた。ノキシブは堅いと思ったが、柔らかいと、触れて感じる大切さを再認識した。
<u>アカメガシワの葉の状態</u> 葉柄が下になるほど長く伸びているのを気付かせ、なぜと問いかける。葉柄を伸ばして陰にならないように工夫をし、植物が大きくなるには太陽と水と二酸化炭素で光合成すること		葉柄という名称は難しいが、本物で示し伝えた。葉柄の長さの違いの問いかけに「栄養を摂るため」など、子どもの考えの素晴らしさを発見した。
<u>ピラカンサの赤い実</u> 実はなぜ、赤や黒等、色を付けるのかと問いかけ、鳥に実が食べ頃と合図し、食べて遠くまで運んでもらい、鳥のお腹の中を通ると発芽する種となって糞と共に落ち、自分の子孫を残す知恵	 写真はインターネットより引用	鳥が実を食べ遠くに種を運ぶ様子をペーパークラフトで示すとイメージができるようだった。実物の説明に加え、視覚教材なども時には効果的である。
<u>いろいろな葉っぱ集め</u> 様々な形の葉を知らせ、植物の多様性を気付かせ、歩きながら探し拾った <u>落ち葉と微生物のこと</u> 落ち葉や枯れ枝が落ちて溜まるのに何故山は落ち葉などで埋もれないの?と質問し、ミミズやキノコや小さな虫や微生物が落ち葉を食べ、分解して土にしている		葉っぱ集めには大変興味をもち、一生懸命探す様子が見られた。しかし、枚岡公園は常緑樹が多く、気候の関係でなかなか思うようには落ちていないため、事前にスタッフが用意しておくのも良い方法だった。
<u>女郎蜘蛛が糸を張っている</u> 糸に繋がった虫を蜘蛛は、口に付いている管から消化液を虫に注入して吸って食べたり、小さな虫は頭から食べる		公園内には蜘蛛の巣が多くあり、植物が多く、虫も多い。蜘蛛には興味があり、次々と見付けて観察していた。餌の食べ方にも関心を持って聞いていた。

	モミジの種を飛ばす 橋の上から種を落としプロペラのように回転して飛んでいくのを観察し、子孫を残す工夫 落ち葉の保水性のこと 川の様子をみて、雨が降っていないのに何処からなぜ水が流れているのだろうか、と質問し、雨が降ったとき落ち葉や草などに雨水が溜まり、土の中に浸透して少しずつ集まり川になって流れているのだという事、森林の大切さ	 	羽の形をしたモミジのタネがくるくる回りながら飛んでいく様子を見て、飛ばす面白さを楽しんでいた。 鳥に運んでももらったり、自ら遠くに飛ぶ工夫をした種があることに気付く児童もいた。 川の水はどのようにして流れてくるのかの問いに、「池がある」など、子どもらしい発想があったが、葉の保水性の話をする、「葉っぱは賢い!」と、自然の知恵に驚いていた。
	ドングリの種類 ドングリを拾い、ドングリ資料を見て、調べさせた ドングリクイズ 根と芽はどこからでくる? ① ドングリの体から出てくる ② ドングリの先から出てくる ③ ドングリの尻から根が出て先から芽が出てくる	 	ドングリがほとんど拾われていたが、それでも喜んで探していた。ドングリクイズの後に土から掘り起こしたドングリに根が出ており、回答を再確認できる場面があり、その子にとっては大発見だった。
	鳥になろう 2人一組となり一人が鏡をあごの下につけて鏡に映る樹の葉や空を見て歩き、復路で交代してどんな気持ちにいったか問う		「空がきれい」「木の葉がよく見える」「いい気持ち」などの感想とともに、気持ち悪いと船酔いのような気持ちになった子もいたが、慎重に体験していた。
自然工作	1年生「カクトのクマ」 クヌギのカクト(耳と紐は事前に張り付け)、アラカシのカクト、ボンド、パンチの切り抜き、マジック	 	1年生でも自分でするようにするため、事前に耳と紐をつけていたことが、子どもの達成感につながり、楽しく終えられた。下準備が個人の負担にならぬよう、今後の課題としたい。
	2年生「マツボックリのフクロウ」 マツボックリ、カボチャの種2個、トチの実、メロンの種、パンチの切り抜き、木の枝(2本)、マジック、ボンド	 	少し難しい工程だが、ティッシュを使ったボンドで貼ると児童の手でも作ることができた。仕上がった子が、まだできない友達に教えたり手伝う教室の光景に、良い教育がされている小学校だと感じた。